

仮面ライダーゼロワン — ウィルスと戦う女

桂ヒナギク

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

人工知能AI搭載の次世代型のスーパーロボットが存在する令和の世界。何者かの手によりインターネット管理されたスーパーロボットがウイルスに侵された。ウイルスを止める戦士は現れるか？

目

次

E
p
i
s
o
d
e

1

1

Episode 1

青年の名は、飛竜^{ひりゅう} 昭^{あきとら}。飛竜AI株式会社の社長である。

飛竜AI株式会社は人間をあらゆる局面でサポートする人工知能搭載人型ロボットを開発している大手企業である。

AIは、感情を持ち、自ら思考し、主のために行動する次世代のスーパーロボットだ。そのスーパーロボットの行動は、全てインターネットを介して監視、制御されているのである。

だが、そのロボットが、何者かの手でコンピュータウイルスにかかり、反乱を起こした。

ウイルスにかかったロボットは、普段は人間の格好をしているが、人を襲う時に怪物に姿を変える。

変貌したロボットは、人間をはるかに超える力を発揮し、通常の武器では太刀打ちが
できないのである。

飛竜社長は、ゼロワンドライバーの開発に着手し、適合者を人間の中から探して回っていた。

昼下がりの飲食店。

叶^{かのう}麗子^{れいこ}は空腹を満たすため、食事をしに来ていた。

ウェイトレスのAIが、麗子の注文を取っていると、いきなり動きが止まってしまった。

「どうされました?」

麗子が訊いても、ウェイトレスのAIは無言のままだ。

すると、AIの目の色が変わり、表皮が剥がれ飛ぶようにして怪物に変貌した。

「……!?!」

麗子は咄嗟に席を立ち、その場を離れた。

「うわああああおおおおあああああー!」

怪物は咆哮し、誰もいなくなった席を破壊した。

騒ぎを知った客や店員たちが、一目散に逃げ出す。

変貌したAIは外に出ると暴れだした。

(このままでは町の人たちが!)

麗子は暴走したAIを止めるため、果敢に立ち向かうが、一撃で吹っ飛ばされた。

そこへ、飛竜が現れた。

「大丈夫？」

その手にはジユラルミンケースが握られている。

「誰？」

「君のような戦士を捜していたんだよね」

「え？」

「ゼロワンドライバーとプログライズキーだ」

ジユラルミンケースを開ける飛竜。

「これを使ってやつを！」

飛竜はバックルとプログライズキーを麗子に渡した。

「バックルを腰に！」

「なんか分かんないけど、やらなくてはいけないのね」

麗子はゼロワンドライバーを装着した。

すると、膨大なデータが脳内に流れ込んできた。

「Jump！」

プログライズキーのボタンを押してからゼロワンドライバーにあてがう。

「オーソライズ」

麗子はプログライズキーをゼロワンドライバーのサイドに装填する。

「変身ー！」

バックルが展開し、黄緑色のバッタの戦士、仮面ライダーゼロワン・ライジングホットパーに変身する麗子。

「あ？」

ゼロワンは自分の体を改める。

見事にゼロワンに変身した麗子は、襲いかかってきたAIと応戦する。

先ほどと同じ力の一撃を浴びるが、ゼロワンはびくともしない。

(防御力パねえ！)

ゼロワンは反撃し、圧倒的な力でAIを追い詰める。

反撃を受けたAIはグロッキー状態に陥る。おちい

「とどめー！」

ゼロワンは装填済みのプログラムライズキーツを奥へ押し込む。

強力な必殺のライダーキック、ライジングインパクトが発動。

飛び上がったゼロワンがAIにとどめの一撃を浴びせた。

AIは爆裂霧散。跡形もなく消滅した。

ゼロワンの変身が解け、麗子の姿に戻った。